

クン・ソカ(Khun Sokha)、カンボジア

2002年7月30日にADRCの客員研究員としてカンボジアから来ましたクン・ソカです。カンボジアは、洪水、干ばつ、暴風雨といった自然災害が非常に多い国です。2001年も、2000年の大きな災害からの復興途上であったにもかかわらず、洪水と干ばつによる大きな被害を受けました。



2000年の洪水は、カンボジアで起きた1961年、66年、78年、84年、91年、96年に大被害を与えた洪水を上回る甚大な被害を与えました。総被害額はおよそ161万米ドルに及び、347名の死者がでました。一方、2001年の洪水および干ばつでも、多くの建造物や作物、人々の健康に被害が出ました。洪水による被災者は14地域の2万人に及び、総被害額は36万米ドルでした。

このような状況に見られるように、カンボジアでは災害によって、貧困緩和のための政策が滞るなど政府の開発プログラムにも影響を与えています。災害対策への対応能力を高めるために、国王令によって、国立災害対策委員会(NCDM)の役割が新たに決定され、補則によってNCDMの機構改革が制定されました。

NCDMは国家の災害対策の責を担う機関ですが、首相と省庁協議会に直属しています。NCDMは、長官、第一副長官、事務局長によって構成される執行委員会によって運営されており、首相(現在はフンセン首相)が長官を務めています。またNCDMの構成メンバーは、17の省庁の大臣です。国王令補則によって、すべての政府省庁は、前向きにNCDMの活動に参加し協力することと決められています。

私は、6ヶ月間の研究活動で、日本の経験について学び、またADRCのメンバー国との災害情報の共有を積極的におこなっていきたいと考えています。さらに、災害対策についてもいろいろ学びたいと考えており、特にADRCのホームページ上で公開されているインターネットベースの災害GISシステム「ベンテン」についても知りたと思っています。

6ヶ月の滞在で様々な経験や最新の技術情報を含む知識を得て、カンボジアの防災対策をより向上させることができるように、頑張りたいと思っています。よろしく願いいたします。

(カンボジアNCDM第一副長官補佐兼緊急支援・復興課長 クン・ソカ)